

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600673		
法人名	社会福祉法人厚真町社会福祉協議会		
事業所名	厚真町高齢者グループホームやわらぎ		
所在地	北海道勇払郡厚真町字本郷236番地6		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0173600479-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆっくり、のんびり、楽しくを目的に、いつでも、どんな時でも、温もりと安らぎのある生活を目指して取り組んでいます。施設敷地内には大きな畑、リンゴの木があり、農作物などの栽培を楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「厚真町高齢者グループホームやわらぎ」は、自然豊かな道央南部に位置する厚真町にある社会福祉協議会が運営する1ユニット9名のグループホームである。広い敷地内にはりんごや梨、ブルーベリーなどの果樹もあり、季節に応じて花や果物狩りを楽しんでいる。建物内は天窓から明かりが注ぐ明るく開放感のある造りで、食堂と居間が分かれている家庭的で温かみのある室内になっている。居間には雛人形や手作りの花など、季節を感じる装飾がさりげなく施されている。今年度は感染症の流行により例年のような地域交流を行うことは難しかったが、近隣の方やコンビニエンスストアからトウモロコシやお花、非常食としての缶詰の差し入れを受けている。家族との面会も困難なため、利用者の普段の様子を写真に撮って送ったり、担当職員による個別便りや利用者本人が書いた手紙を送るなどの取り組みにも力を入れている。災害対策の面では、管理者が中心になり災害時防災対策マニュアルを作成し、法人間での協力体制の強化に取り組んでいる。職員体制も充実しており、一人ひとりの利用者に応じた適切なケアにつなげている。管理者は、全職員が穏やかな気持ちで利用者に優しく温かな支援ができるように、常に職員のストレス緩和に努めながら前向きに運営に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念は、事業所内に掲示している。以前は毎朝引継ぎ終了後に皆で理念を唱和していたがコロナウィルス感染症予防のために声を出し唱和することは中止している。	「一人ひとりと向き合い、自分らしく安心して暮らせるよう支援します」という事業所独自の理念を作成し、事務所や共用空間に掲示している。管理者は職員採用時に説明し、朝夕のミーティングで事務所の掲示を示して意識するよう声かけをしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のこども園、小中高(学校)との交流機会を毎年予定しているがコロナウィルス感染症予防のために中止している。	感染症の流行で地域交流は難しかったが、近隣の方から野菜やお花、コンビニエンスストアから非常食に利用できる缶詰の差し入れを受けている。食材購入など、地域の商店を利用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取組はないが、法人本部と連携しながら支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員の意見がある場合は、事業運営の参考にしている。	今年度は感染症対策などを中心に、年4回運営推進会議を開催し、内2回は書面会議を実施している。会議案内と議事録は家族会代表のみに送付し、会議内容は年3回開催している家族会で報告しているが、今年度は実施されていない。	会議に参加できない家族の意見などもテーマに沿って事前に聞き取りながら会議に活かすと共に、議事録は全家族に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から町福祉担当とは連絡を取り合い連携している。	法人が社会福祉協議会のため、常に役場と情報交換しながら連携した運営を行っている。管理者は書類の提出で役場を訪問したり、電話やファックスで連絡を取り合い常に相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の指針を示し、手引を介護員に配布している。職場内研修で身体拘束をしないケアについて話し合っている。	禁止の対象となる具体的な行為を記載した「身体拘束廃止に関する指針」を作成し、内部研修で再確認している。3か月ごとに委員会を実施して全職員で情報を共有している。委員会の議事録と資料を更に分かりやすく整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の理念を示し、手引を介護員に配布し理解を深めてもらうとともに、職場内研修にて虐待に関する意識を高めている。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、十分な研修の機会を得られていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な理解がいただけるよう、丁寧に説明するように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者家族会を開催し、要望や意見をいただく機会を設けていたが、コロナウィルス感染症予防のため家族会の開催は中止している。電話連絡で近況報告も兼ねて意見聴取に努めている。	管理者は毎月、家族に電話をして利用者の様子を伝え意見や要望を聞き取り、内容に応じて相談記録や個別のケア記録に記入している。3か月ごとにお便りや写真、手紙を家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別面談の場において意見を聞くように努めている。	管理者は普段から職員を中心にケアに取り組んでおり、感染症予防の消毒方法などについて職員から提案を受けてケアに反映させている。職員は利用者担当や係分担、各種委員会を担当しながら運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や退職金の支給制度の整備など、現状でできる限りの労働環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部研修を実施している。職責や職歴に応じた研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルス感染予防のため、近隣事業所との交流する機会は中止している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に、家族やサービス事業所から情報を集めるとともに、サービス開始後も本人に意向を確認するなど関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族と面談するとともにサービス開始後も意向の再確認に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申請時の相談機会において、ほかに適当と考えるサービスについても説明する事で他の選択肢も提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊仕事や調理、裁縫など利用者が得意なことを職員が教えてもらうなど、暮らしをともにし支え合う関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時などにおいてご家族の役割などを共に考え、本人を支えていく関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別での外出支援において、行きつけであった商店で買い物をしたり町内の馴染みのある場所に出かけていたが、コロナウィルス感染予防のため現在は外出を自粛している。	同級生と電話で話をしたり、親族から手紙や贈り物が届く利用者もいる。感染症の流行により外食に行けないため、馴染みのお店から好きな出前を取ったりドライブで懐かしい景色を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性の把握に努め、円滑な人間関係が保たれるとともに、孤立しないよう留意している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があればフォローアップする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動を記録し、ケア会議等で検討している。	現在の利用者は会話から思いや意向を把握することができ、趣味や嗜好などの情報もアセスメントシートに記録している。変化に応じて追記し、6か月ごとにアセスメントシートを更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族にこれまでの生活歴について聞き取りを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングやケア会議により日頃の状況について把握、共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議においてモニタリングを行い介護計画を作成、修正している。	計画作成担当者と利用者担当職員を中心に、家族の意向を反映させ6か月ごとに介護計画を作成している。ケア記録に変化や利用者の言動も記入しているが、更に更新計画に活かせるように介護計画に番号を割り振ることも検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日のケア記録を作成しており、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多様化するニーズに対して柔軟に検討し、ともいきの里全体で支援できることはないか、ボランティアの活用はできないかを検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体や他事業所との交流を通して楽しむことができるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に沿って、かかりつけ医に定期受診している。受診の際は職員が付き添い受診結果については電話等で家族に報告している。	冬期は協力医療機関の往診を受けている。専門医の受診は健康状態に応じて職員が同行し、主治医と連携しながら適切な医療が受けられるように支援している。受診と往診は個別に記録している。	

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を構築しており、週2回程度、契約看護師が事業所を訪問している。適宜看護師との相談、連絡ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換に努めており、できるだけ早期に退院できるよう連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を構築するとともにターミナルケアに関する指針を策定している。これを利用者家族に説明、同意を得るとともにチームで支援できるよう努めている。	「重度化した場合における看取り指針」を作成し、利用開始時に事業所としての方針を説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で話し合い、医師の判断の下に希望に応じて看取りを行っている。看取り研修も定期的実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や体調急変時の対応マニュアルを作成し、掲示するとともに職員に配布している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成している。定期的に避難訓練を実施している。	消防署の協力を得て、年2回日中の火災を想定した避難訓練を実施している。最近では地域住民の参加は得られていない。地震時の危険箇所を常に確認し、災害備蓄品も整備している。ケア別の対応については今後話し合いたいと考えている。	感染症の流行状況を見ながら、地域住民も参加した夜間想定避難訓練を行うよう期待したい。また、地震時のケア別の対応について話し合った内容をマニュアルなどに綴るよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護に関する指針を定め、個人情報の取り扱いは十分配慮している。本人の生活歴や性格を尊重した言葉かけ、支援に努めている。	「さん」付けで呼んでいる。利用者の意向により愛称で呼ぶこともある。申し送りは事務所内で行い、書類は目の届かない場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通じて思いを把握できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で職員都合を優先せず利用者一人ひとりのペースで個別にあった柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や施設行事などで化粧や洋服でのおしゃれの支援を実施している。理美容については希望する店舗でサービスが受けられるよう支援している。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	摂取制限のあるものに配慮しつつ個人の嗜好を取り入れるよう考えている。野菜の皮むき、下膳や茶碗拭きなど準備、片付けをしていただいている。職員も利用者と同じ席と一緒に食事を摂っている。	当日の食材に合わせて、利用者と一緒に献立を決めている。野菜の下拵えや調理も一緒に行っている。誕生日には利用者希望の料理を作っている。出前や持ち帰りも利用し、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録によって食事、水分摂取量を把握し、過不足がないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に義歯洗浄、口腔ケアを実施し口腔内の状態も確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア記録によって排尿、便の間隔や時間を推定し排泄の自立にむけて支援している。	「ケア記録表」の尿・便欄に記録している。自立している利用者もいる。時間や利用者の仕草を見て適切に声かけや誘導を行い、失敗を減らしている。夜間も可能な限りトイレを利用している。布パンツに改善した例もあり、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少なくならないように努めるとともに、個別に牛乳やヨーグルト等の乳製品を提供している。また、体操や散歩など身体を動かす取り組みも実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれ入浴日は決めさせていただいているが、その日の本人の気分などで入浴を嫌がってしまうときは、別の日に変更したり柔軟な対応を行っている。	一人週2回の入浴支援を全日行っている。利用者の希望の時間帯で入浴している。リフト浴もあり、全員が湯船に浸かっている。入浴剤の利用やゆず湯などの季節湯も利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠だけではなく、日中もこまめに休息できるように、照明の明るさや室温等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容を確認しやすいように書類整理しており薬剤の重要性を理解して支援している。不明な点は医師、看護師に適宜確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことを活かしながら、家事、買物、レク、畑仕事などに取り組んでいる。		

厚真町高齢者グループホームやわらぎ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買物、ドライブ、外食などを定期的に計画している。	敷地内に複数の果物の木があり、生育状況を楽しみながら散歩をしている。畑の作物の手入れや水やりなど、日常的に外気に触れる機会を多く作っている。ドライブで追分方面の菜の花畑見学や厚真町内での紅葉見学、お寺での桜鑑賞など、季節ごとの楽しい外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が少量の金銭を自己管理して買い物等に使用している。その他の方は家族と相談のうえ行事等で少額の金銭を渡し自身で支払い等ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも家族に電話をされたり、手紙を書いて投函できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は食卓とリビングを分けて、くつろげる空間づくりに努めている。また季節に応じた装飾に取り組んだり、利用者が作成した作品などを掲示している。	対面式のキッチンと食卓、リビングは広々としており、天窓からは多くの陽が差し込み明るい空間となっている。雛人形や手作りの梅の花、富士山などの季節に合った装飾が施されている。ソファを多く配置するなど、利用者の気分に合わせ居心地のよい場所でゆったりと温かさを感じながら過ごすことのできる共用空間が作られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数人が座れるソファを設置し、気の合う方と座ったり談笑している。また、職員が利用者の状況に配慮して落ち着いた過ごせる場所への誘導に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染み深い使い慣れた物品を居室に置くことで少しでも居心地が良いと感られるように配慮している。	洗面台、ベッド、クローゼットが備えつけられている。使い慣れたタンスや仏壇、馴染みの物やぬいぐるみなど好みの物を持ち込んでいる。地域の方から貰った花を飾っている利用者もあり、温もりがあり、安心して過ごすことのできる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札を出したり、トイレに「便所」という貼り紙をするなどの工夫により自立した生活につながるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 厚真町高齢者グループホームやわらぎ

作成日：令和 3年 3月 24日

市町村受理日：令和 3年 3月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	記録の記載方法について、サービス提供を実施した結果、利用者の反応や言動がどうだったか等わかりやすく記載できる様式となっていない。	日常の記録のなかで、生活状況やサービスを提供した結果等を時系列にわかりやすく記録を記載する。	記録の大切さ等を職員間で再周知する。また既存の記録様式の見直しを行う。	令和3年度に整え開始する
2	2	コロナウィルス感染予防のため、外出や行事等を制限せざるを得ない状況で地域との交流ができなかった。	コロナ禍の中でも地域と関りを持ち、交流機会を持つ。	一年間通して感染症予防を実施してきたことを振り返り、しっかりと感染予防を行えば実施できること等を検討し実施に向け企画する。	令和3年度に整え開始する
3	8	日常生活自立支援事業や成年後見制度について十分な理解を得られていない。	全スタッフが制度の説明ができるようにする。	外部研修の参加や定期的な内部研修を実施し、繰り返し学習することでスタッフ間で知識を共有する。	令和3年度に整え開始する
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。